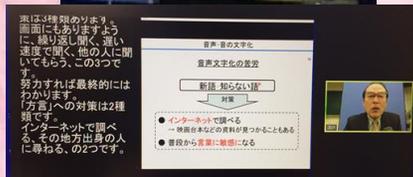


発行／2021年4月1日 神奈川県聴覚障害者福祉センター補聴相談室



3月27日(土)
伝わりやすい字幕を目ざして」というテーマで神奈川県要約筆記協会字幕部の佐藤陽太郎氏にご講演いただきました。字幕を作る際、早口・不明瞭、方言、新語を文字化するのに苦労する。それでも対策をたて、字幕にする。複数の人が話している時は、名前を表示したり、文字の色を変えたり、表示する文字の位置を変えたりして工夫をしているとのこと。何気なく見ていた字幕が、苦勞して作られ、視聴者に見やすいようにと考えられていることを改めて知ることができました。ご講演後は、工夫を凝らした字幕付き作品を楽しみました。落語、CMあれこれ、紀行もの、科学を扱ったものでした。最近では、テレビでは、字幕付きのものも多くなりましたが、CMや娯楽作品では、まだまだ付いていないものもあります。字幕が付けば、いつでも情報を得たり、好きな作品を楽しむことができます。どんなものにも字幕が付くことが当たり前の社会になりますように…

令和2年度最後の コミュニケーション講座 を開催しました

令和3年度も「きこえにくい人のための コミュニケーション講座」開催します

この講座は、きこえない(きこえにくい)人が、日常で困っていることはないか、コミュニケーションがうまくいかず、人と会うのが億劫になっていないか。そんな方々のために、きこえを補ういろいろなコミュニケーション方法、便利な機器やツールをご紹介します。体験談もあります。他の方の話を聞いて、参考にしませんか。共感できることもあると思います。ご家族など周囲の方のご参加も大歓迎です。月に1回のペースで開催します。

ただ、コロナの状況は、まだしばらく続きそうです。そのような中でも、感染予防対策をしっかりと講じながら、開催していこうと考えています。3密を避けなければなりませんので、会場では、定員を設けています。

第1回目は、会場参集とオンラインを併用して開催する予定です。ぜひ、ご都合のつく方法でご参加いただくと幸いです。

第1回 体験談「聞こえにくさをかかえて生きる—健聴から難聴、そして人工内耳」

令和3年4月10日(土)10~12時

講師：NPO法人神奈川県中途失聴・難聴者協会
勝谷 紀子氏

参加方法：会場参集かZOOM(オンライン)

申込：右のQRコードを読みとるか、

<https://forms.gle/qf3xUU4431epn3fP9>

にアクセスするか、直接、センターまでお申込みください。

神奈川県聴覚障害者福祉センター 相談担当 大本

電話(0466)27-1911/ FAX(0466)27-1225

メール soudan@kanagawa-wad.jp



耳マークをご存じですか?!



役所や病院の窓口に掲げていて、「耳の不自由な方は筆談します」という文が添えてあります。あるいは耳マークのカードやシールを持ち歩いている人がいます。聴覚障害は、外見からはわかりにくいのでこのマークで障害を周りの人知ってもらうのです。

全難聴より引用

<https://www.zennancho.or.jp/mimimark/mimimark/>

補聴相談室から

横浜能楽堂での「バリアフリー能」を鑑賞してきました。

これはどなたにも、日本の伝統芸能を楽しんでもらうため、いろいろな配慮がされているものでした。視覚障害者には点字チラシ・パンフレット、舞台の縮図を手で触ってわかるような紙の用意、副音声で舞台の説明がある。聴覚障害者には、手話通訳と字幕配信台本も配布されていました。車椅子利用者のための駐車場、トイレ、舞台も車椅子のまま楽しめる、というものでした。当日鑑賞できなかった方には期間限定ですが、公演全編を字幕・副音声付で公開しています。

他にも、おうちで楽しむ能楽堂、施設見学会など様々なコンテンツがありますので、関心ある方はぜひアクセスしてみてください。

(文責 大本純子)

